

中田かわら版 7月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<52>

ふるさとに花を咲かせて 60 年

伊澤 博さん (79 歳) 下村



歴史豊かなかまくら道がある。その昔、甲冑で戦支度をした武将が足軽、家来を従えてこの道を馬で駆け抜けたであろうと想像は膨らむ。このかまくら道に面し 60～70m の間口を使い、奥行きは更に深く「花や館いざわ」は住宅街のオアシスの如く存在する。伊澤さんは根っからの地元びと。中田で生まれ、中田で育ち、中田で働いてきた。若い時に少しだけ運送業を手伝ったが、ひたすら土と暮らし花を育て、植物をパートナーに事業を

大きくしてきた。そんな中に近隣の花屋さん 7 軒で立ち上げて運営してきた「中田^{かき}花卉組合」があった。時代のすう勢で止む無く縮小、解散することになった時、花卉組合の残金全て (83 万円) を中田地区社会福祉協議会が事業運営する「二十日会」に寄付した。中田花卉組合は平成 11 年に泉区社会福祉協議会より表彰されているのでその頃のことと思う。二十日会 (高齢者食事会) の会費を 17 年も値上げせずに運営できたのはこの寄付のおかげなのだとう地区社協 30 周年記念誌に載っている。

さて、その「中田花卉組合」だが解散はしたものの、実は「名」は残っている。それが「ほおずき・朝顔市」だ。このイベントは中田地区社会福祉協議会が事業運営の為の、或いは多くのボランティア活動団体へ助成金を提供するための資金を得る事業である。花や館いざわさんは場所、設備、仕入れなどほとんどの準備をしてくれる。更に売上の中から仕入れ額だけを引いて残り全てを社協へ提供してくれている。しかし「ほおずき・朝顔市」の主催者のひとりには「中田花卉組合」であり「中田連合自治会」であり「中田地区社会福祉協議会」である。「花や館いざわ」は協賛者に過ぎない。花卉組合の名を残すことによって伊澤

さんの想いは未来へと続く。

また、伊澤さんは御霊神社の氏子総代世話人であり、神社の秋の例大祭に催される演芸大会の演出に携わっている。その縁で知り合う多くの芸人さんがいる。彼らは後々も伊澤さんに発表の場を与えて貰うことになる。普段は汗まみれ、土まみれの伊澤さんはたまに夜になるとサッパリとダンディーな男の顔になる。馴染みのスナックで焼酎を舐めながら唄うのはキーを 2 音上げた「天城越え」

だ。種苗を育て花を咲かせ、福祉活動を陰ながら支援し、若い人 (芸人さん) たちが花開くことをこの郷土中田で見届けようとしている。演歌だなあと思う。ほおずき市は今年で 31 年目。これから 50 年 100 年と続けば「かまくら道風物詩」の一つとして残るであろう。 (松本 ただし)



～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

8月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【サマーフェスティバル】

8月17日（土）中田小学校グラウンド ※予備日 24日（土）

・ **子どもの部** 14:30～18:00

お楽しみゲーム大会、ブラスバンド演奏、ビンゴ、模擬店など

・ **夜の部** 16:30～21:10 盆踊り、キッズダンスなど



夏祭りについては
各自治会町内会に
お問合せください。

■中田の歴史記念物< 5 >

庚申塔について (御霊神社)

中田で確認されている庚申塔は12基。仏(猿)像^{ろっぴしょうめん}2、六臂青面金剛像6、文字塔4となっている。今回、紹介したいのが御霊神社の大鳥居をくぐると左側に鎮座する2基の庚申塔である。手前が形態としては円頂角柱碑と呼ばれるもので塔身部が65×30×32cm。嘉永6年(1850)2月吉日建立とある。以前は栃木屋の前にあったが、平成24年10月に御霊神社に移されている。塔の左面に西 大山道、東 かしお道とあるのは道標の役目を持っていた。台部に中田村、根下講中の文字が見える。「根下」は中田でも由緒ある地名であり懐かしさと嬉しさを感じる。その隣にある笠付角柱碑(総高109cm、塔身66.5cm)が寛永6年(1666)2月吉日建立で横浜市で最も古い。石造庚申塔の中では横浜市指定有形文化財になっている。塔の四面には南無阿弥陀仏の名号が刻まれている。三猿は正面が耳を、左が口、右が目をそれぞれ塞いでいる。およそ350年前とは思えないほど保存状態が良く、細かい工夫が施されているのも必見。



(上)六臂青面金剛像(白百合公園)
(下)市で最も古い庚申塔。笠付角柱碑(御霊神社)



円頂角柱碑(御霊神社、元栃木屋前)

ところで「庚申」とは何か。文字感からも分かるように、元は中国の道教に由来する信仰である。長生きを願うならば庚申の日は眠らずに起きていなければならないとされていた。「人間の体内には三尸^{さんし}という虫がいて、庚申の日になると体から抜け出し天に昇り、天帝にその人の罪過を報告し、早死にさせようとする」。そのため「庚申待^{まち}」という行事が民間に広まり、夜になると村落の全戸、あるいは有志によって組織された「庚申講」のメンバーが社寺や庚申堂に集まり神仏の画像を掲げ神酒、食物を供え、読経や真言など唱える。終わるとおしゃべり、飲み食いをして夜を明かす。最初は平安時代の貴族社会で始まり、次第に庶民に浸透してからは一種の社交場へと変貌していった。

庚申信仰の本尊とされている青面金剛は病魔退散の神として知られ『陀羅尼集経』に身体が青色であることが記されているからこの名がある。さらに庚申の申から猿田彦神とも混淆し独特の信仰が庶民の間に広まって行った。

<参考資料>「郷土いずみ」(泉区歴史の会)、「仏像図解新書」(小学館)、「横浜市文化財調査報告書」(横浜市教育委員会)。

(宮田貞夫)

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス!!